

*** 新型コロナウイルスと日本人

今冬は暖冬が続き、年明け前の札幌はほぼ“積雪ゼロ”、記録的な少雪であった。2月に入ってさっぽろ雪祭り前後から春を告げる湿った雪に数回見舞われ、除雪・排雪に大汗をかいたが、気象台は今冬を“異常気象”と発表した。結局最大積雪深は平年並みとなったのではあるが・・・。

そして、その前後から北海道も得体の知れない新型コロナウイルス禍に振り回されている。1月28日に道内初の感染者が確認されており、2月28日北海道が全国に先駆けて独自に「緊急事態宣言」を発令(3月20日からは新ステージへ移行)以降、3月11日のWHO(世界保健機関)による「パンデミック(世界的流行)宣言」、4月7日の改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が発令され、以来、桜の季節到来の現在も、マスク・手洗い・うがいの励行に加え、三密(密室、密集、密接)の厳重回避、さらには在宅勤務・時差出勤、不要不急の外出禁止など“自宅謹慎”を余儀なくされている状況が続いている。

そんななか、4月初旬発売の月間文芸春秋5月号の特集では、藤原正彦、塩野七生両氏が日本人論、“日本人の特異性”を語っており、同感の思いで“自粛の日々”を過ごしている。

なかでも、両氏が述べる日本人の持つ民度の高さ、とりわけ“衛生観念”と“公共の精神”が、諸外国に比べ桁外れに少ない感染者や死者の数に現れているとする件(くだり)には、納得するとともに、おおいに収束・終息への期待を抱かせてくれた。

欧米にはない靴を脱いで家に入る習慣やウォシュレットが国民中に普及していることに代表される日本人の清潔感覚は地球上で群を抜いており、手洗い・うがいなどの慣習にも通じている。また、他国民には見られない独特の公共心が、他人に感染させない行動や医療崩壊が起きないような対応を、個々人が考え行動自粛に務めていることにつながっている。このことは、東日本大震災時、支援物資の配布場所やガソリンスタンドに行列に並んで整然と待つ日本人の姿に世界中が驚愕したことに表れていた・・・と論説している。

蛇足ながら、大陸の中国人と台湾人の決定的違いは、台湾人が日本統治時代に学んだ公共心の有無にあることは、台湾人が自ら述べ、よく知られていることである。台湾では新型コロナウイルスの感染が早々に収束に向かっており、こうした国民性と無縁ではないように思われる。

なお、雑誌特集のそのあとに続く著名人の論説は、少なからず情報に信憑性の乏しいものがあり、その真偽に疑問があるばかりか、論点が興味本位とさえ思われるほど情緒的なことから、徒に混乱を招く、読むに及ばずの感があるのは困ったものである。

ところで、これまでの土木屋の経験に照らしてみても、公共の精神について諸外国との違いを感じるのは、下水道にまつわることである。

古代、都市国家ローマなどは公共事業として下水道を整備し、今日の生活環境につ

なげてきた。いわば、公の整備が求める税負担が“公共”の意識といえるだろう。一方、日本では、様々な普請は住民の労働提供により行われてきた。いわば、自分達の環境は自分たちで創り出すという、(地縁性の)共同体意識の公共心である。私たちの世代までは住民総出で実施した“溝浚え”(どぶさらえ)を記憶しているが、まさにこれが公共の精神のひとつの顕われといえよう。

私見ではあるが、下水道整備が進んで、こうした共同作業が姿を消し、共同体意識が薄れて以来(つまり昭和40年代以降)、残念ながら“個性”の名の下、日本人の公共心に陰りが見えはじめたと感じている。

ともあれ、現代の日本人も、けっして捨てたものではない。

コロナ禍は、まだまだ予断は許されない状況が続いているが、個々人の行動原則はこれまで対応してきた、うがい・手洗い・マスクの励行と三蜜(密閉、密集、密接)の回避に尽きるように思われ、これらは医療体制・設備の充実やワクチン・治療法の開発(最低1年程度はかかるとされる)までの“時間稼ぎ”であることも大半の国民は理解している。行政のトップはそのことを念頭に置いて諸対策を検討し、訴えかけ方を考えてほしい。

日夜医療の現場で感染の危険と向き合いながら奮闘を続けている関係各位、そして、整然と行動している大方の日本人各位に敬意を表するとともに、多岐にわたる情報や意見の交換に応じてくれる知己・友人に、それがどれほど心強い感謝したい。

ここに、2020年3月18日に行われたドイツ・メルケル首相の演説を転記し、改めて日本人の一人としての心構えとしたい。これは、新型コロナウイルス対策として様々な個人の行動を大幅に制限する厳しい措置を講じることになったため、国民に理解と協力を訴えかけたものである。

2020年4月15日 MS生

ネット上に掲載された右の短歌(狂歌)は、デジタル時代にあってもアナログ感覚が溢れていて秀逸である。

こうした“遊び心”をおおいに発揮しながら、この難局を乗り切っていきたいものである。

ついでに、これからしばらく天体ショーが繰りひろげられるという。

明け方に火星、木星、土星が東の空に一堂に会するのは、惑星の公転周期が違うため20年ぶりとか……。月も加わって4つの星の共演は6月一杯続くらしい。

晴れた夜明け前、この自然界の“贈り物”を眺め、気宇壮大にして、はるか無限の時空に想いを馳せることとしよう。

輪廻のめぐり合わせを感じつつ感謝を込めて……



(ドイツ・メルケル首相の演説)

国民の皆様、コロナウイルスは現在わが国の生活を劇的に変化させています。私たちが考える日常や公的生活、社会的な付き合い、こうしたものすべてがかつてないほど試されています。

何百万人という方々が出勤できず、子どもたちは学校あるいはまた保育所に行けず、劇場や映画館やお店は閉まっています。そして何よりも困難なことはおそらく、いつもなら当たり前の触れ合いがなくなっているということでしょう。もちろんこのような状況で私たちはみな、これからどうなるのか疑問や心配事でいっぱいです。

私は今日このような通常とは違った方法で皆様に話しかけています。それは、この状況で連邦首相としての私を、そして連邦政府の同僚たちを何が導いているのかを皆様にお伝えしたいからです。開かれた民主主義に必要なことは、私たちが政治的決断を透明にし、説明すること、私たちの行動の根拠をできる限り示して、それを伝達することで、理解を得られるようにすることです。もし、市民の皆さんがこの課題を自分の課題として理解すれば、私たちはこれを乗り越えられると固く信じています。

このため次のことを言わせてください。

事態は深刻です。あなたも真剣に考えてください。東西ドイツ統一以来、いいえ、第二次世界大戦以来、これほど市民による一致団結した行動が重要になるような課題がわが国に降りかかってきたことはありませんでした。私はここで、現在のエピデミック^{*1}の状況、連邦政府および各省庁がわが国のすべての人を守り、経済的、社会的、文化的な損害を押さえるための様々な措置を説明したいと思います。しかし、私は、あなたがた一人一人が必要とされている理由と、一人一人がどのような貢献をできるかについてもお伝えしたいと思います。

※1 これまで流行がなかった地域に感染症がみられる予期せぬ状況で、一定期間に限られた現象。パンデミックは、ある感染症の世界的な大流行をいう。エンデミックは、通年的に流行している状況。

エピデミックについてですが、私がここで言うことはすべて、連邦政府とロバート・コッホ研究所の専門家やその他の学者およびウイルス学者との継続審議から得られた所見です。世界中で懸命に研究が進められていますが、コロナウイルスに対する治療法もワクチンもまだありません。

この状況が続く限り、唯一できることは、ウイルスの拡散スピードを緩和し、数か月にわたって引き延ばすことで時間を稼ぐことです。これが私たちのすべての行動の指針です。研究者がクスリとワクチンを開発するための時間です。また、発症した人ができる限りベストな条件で治療を受けられるようにするための時間でもあります。

ドイツは素晴らしい医療システムを持っています。もしかしたら世界最高のシステムのひとつかもしれません。そのことが私たちに希望を与えています。しかし、わが国の病院も、コロナ感染の症状がひどい患者が短期間に多数入院してきたとしたら、完全に許容量を超えてしまうことでしょう。

これは統計の抽象的な数字だけの話ではありません。お父さんであり、おじいさんで

あり、お母さんであり、おばあさんであり、パートナーであり、要するに生きた人たちの話です。そして私たちは、どの命もどの人も重要とする共同体です。

私は、この機会にまず、医師としてまたは介護サービスやその他の機能でわが国の病院を始めとする医療施設で働いている方すべてに言葉を贈りたいと思います。あなた方は私たちのためにこの戦いの最前線に立っています。あなた方は最初に病人を、そして、感染の経過が場合によってどれだけ重篤なものかを目の当たりにしています。そして毎日改めて仕事に向かい、人のために尽くしています。あなた方の仕事は偉大です。そのことに私は心から感謝します。

さて、重要なのは、ドイツ国内のウイルスの拡散スピードを緩やかにすることです。そして、その際、これが重要ですが、1 つのことに賭けなければなりません。それは、公的生活を可能な限り制限することです。もちろん理性と判断力を持ってです。国は引き続き機能し、もちろん供給も引き続き確保されることになるからです。私たちはできる限り多くの経済活動を維持するつもりです。

しかし、人を危険にさらす可能性のあるものすべて、個人を、また共同体を脅かす可能性のあるものすべてを今減らす必要があります。人から人への感染リスクを可能な限り抑える必要があります。

今でもすでに制限が劇的であることは承知しています。イベント、見本市、コンサートは中止、とりあえず学校も大学も保育所も閉鎖され、遊び場での遊びも禁止です。

連邦政府と各州が合意した閉鎖措置が、私たちの生活に、そして民主主義的な自己認識にどれだけ厳しく介入するか、私は承知しています。わが連邦共和国ではこうした制限はいまだかつてありませんでした。

私は保証します。旅行および移動の自由が苦勞して勝ち取った権利であるという私のようなものにとっては、このような制限は絶対的に必要な場合のみ正当化されるものです。そうしたことは民主主義社会において決して軽々しく、一時的であっても決められるべきではありません。しかし、それは今、命を救うために不可欠なのです。このため、国境検査の厳格化と重要な隣国数か国への入国制限令が今週初めから発効しています。経済全体にとって、大企業も中小企業も、商店やレストラン、フリーランサーにとっても同様に、今は非常に困難な状況です。今後何週間かは一層困難になるでしょう。

私は皆様に約束します。連邦政府は、経済的影響を緩和し、特に雇用を守るために可能なことをすべて行います。

わが国の経営者も被雇用者もこの難しい試練を乗り越えられるよう、連邦政府は、必要なものをすべて投入する能力があり、またそれを実行に移す予定です。また、皆様は、食料品供給が常時確保されること、たとえ 1 日棚が空になったとしても補充されること信じて安心してください。スーパーに行くすべての方にお伝えしたいのですが、備蓄は意味があります。ちなみにそれはいつでも意味のあるものでした。けれども限度をわきまえてください。何かがもう二度と入手できないかのような買い占めは無意味ですし、つまるところ完全に連帯意識に欠けた行動です。

ここで、普段滅多に感謝されることのない方たちにもお礼を言わせてください。

このような状況下で日々スーパーのレジに座っている方、商品棚を補充している方は、現在ある中でも最も困難な仕事のひとつを担っています。同胞のために尽力し、言葉通りの意味でお店の営業を維持して下さりありがとうございます。

さて、今日私にとって最も緊急性の高いものについて申し上げます。私たちがウイルスの速すぎる拡散を阻止する効果的な手段を投入しなければ、あらゆる国の施策が無駄になってしまうでしょう。その手段とは私たち自身です。私たちの誰もが同じようにウイルスにかかる可能性があるように、今誰もが皆協力する必要があります。

まず第一の協力は、今日何が重要なのかについて真剣に考えることです。パニックに陥らず、しかし、自分にはあまり関係がないなどと一瞬たりとも考えないことです。不要な人など誰もいません。私たち全員の力が必要なのです。

私たちがどれだけ脆弱であるか、どれだけ他の人の思いやりのある行動に依存しているか、それをエビデミックは私たちに教えます。また、それはつまり、どれだけ私たちが力を合わせて行動することで自分たち自身を守り、お互いに力づけることができるかということでもあります。

一人一人の行動が大切なのです。私たちは、ウイルスの拡散をただ受け入れるしかない運命であるわけではありません。私たちには対抗策があります。つまり、思いやりからお互いに距離を取ることです。

ウィルス学者の助言は明確です。握手はもうしない、頻繁によく手を洗う、最低でも1.5メートル人との距離を取る、特にお年寄りや感染の危険性が高いのではほとんど接触しないのがベスト、ということです。

こうした要求がどれだけ難しいことか私は承知しています。緊急事態の時こそお互いに近くにいたいと思うものです。私たちは好意を身体的な近さやスキンシップとして理解しています。けれども、残念ながら現在はその逆が正しいのです。これはみんなが本当に理解しなければなりません。今は、距離だけが思いやりの表現なのです。

よかれと思ってする訪問や、不必要な旅行、こうしたことすべてが感染拡大を意味することがあるため、現在は本当に控えるべきです。専門家がこう言うのには理由があります。おじいちゃんおばあちゃんと孫は今一緒にいてはいけない、と。

不必要な接触を避けることで、病院で日々増え続ける感染者の世話をしているすべての方々を助けることになります。こうして命を救うのです。多くの人にとってこれはきついことでしょう。誰も一人にしないこと、声かけと希望が必要な方たちの世話をすることも重要になってきます。私たちは家族として、また社会として別の相互扶助の形を見つけるでしょう。

今でもすでに、ウイルスとその社会的影響に対抗する創造的な形態が出てきています。今でもすでに、おじいちゃんおばあちゃんがさみしくないようにポッドキャスト^{※2}をするお孫さんたちがいます。

※2 ポッドキャストとは、スマホやパソコンで放送を無料で聴ける音声コンテンツのこと。

私たちは皆、好意と友情を示す別の方法を見つけなければなりません。スカイプや電話、イーメール、あるいはまた手紙を書くなど。郵便は配達されるのですから。自分

で買い物に行けないお年寄りのための近所の助け合いの素晴らしい例も今話題になっています。まだまだ多くの可能性があるとは私は確信しています。私たちがお互いに一人にさせないことを社会として示すことになるでしょう。

皆様をお願いします。今後有効となる規則を遵守してください。私たちは政府として、何が修正できるか、また、何がまだ必要なのかを常に新たに審議します。

状況は刻々と変わりますし、私たちはその中で学習能力を維持し、いつでも考え直し、他の手段で対応できるようにします。そうなればそれらもご説明します。

このため、皆様をお願いします。噂を信じないでください。公的機関による発表のみを信じてください。発表内容は多くの言語にも翻訳されます。

私たちは民主主義社会です。私たちは強制ではなく、知識の共有と協力によって生きています。これは歴史的な課題であり、力を合わせることでしか乗り越えられません。

私たちがこの危機を乗り越えられるということには、私はまったく疑いを持っていません。けれども、犠牲者が何人出るのか。どれだけ多くの愛する人たちを亡くすことになるのか。それは大部分私たち自身にかかっています。私たちは今、一致団結して対処できます。現在の制限を受け止め、お互いに協力し合うことができます。

この状況は深刻であり、まだ見通しが立っていません。それはつまり、一人一人がどれだけきちんと規則を守って実行に移すかということにも事態が左右されるということです。たとえ今まで一度もこのようなことを経験したことがなくても、私たちは、思いやりを持って理性的に行動し、それによって命を救うことを示さなければなりません。それは、一人一人例外なく、つまり私たち全員にかかっているのです。

皆様、ご自愛ください、そして愛する人たちを守ってください。
ありがとうございました。



羽二重団子でひとやすみ・・・(東京・千駄木・団子坂界限)